

守山企業景況調査報告書

(第 39 回)

平成 31 年 4 月～令和元年 6 月期 実 績

令和元年 7 月～令和元年 9 月期 見通し

守山企業景況調査について

(平成 31 年 4 月～令和元年 6 月期)

1. 調査方法

守山商工会議所会員企業 69 社に対し調査票を配布し、回答を依頼した。記入済み調査票は商工会議所へ持参、郵送、Fax 等により回収した。

2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
小売業	20	15	75.0%
製造業	13	11	84.6%
建設業	12	10	83.3%
サービス業	19	16	84.2%
卸売業	5	5	100.0%
合計	69	57	82.6%

3. 調査期間

調査期間は、実績を平成 31 年 4 月～令和元年 6 月、見通しを令和元年 7 月～令和元年 9 月とし、調査時点は令和元年 7 月 31 日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指標として DI 指数を採用した。DI 指数とは DIffusion Index (気動向指数) の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差引いた数値である。

「業況」、「売上」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金の借入れ難易度」の DI 指数は 3 カ月前との比較である。

「取引の問い合わせ」、「採算(経常利益)の水準」の DI 指数は過去との比較ではなく、調査時点での水準を聞いたものである。

調査の概要

平成31年4月～令和元年6月期の守山企業景況調査の結果は、以下の通りである。調査結果はDI指数（景気動向指数）を用いて示している。

DIは、「増加」「好転」等の企業割合から「減少」「悪化」等の企業割合を差引いた数値である。そのため、DIが±0の状態であれば、「増加」「好転」等の企業割合と「減少」「悪化」等の企業割合が同じであることを示し、プラスの数値であれば「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも多いことを示す。逆にDIがマイナスの数値であれば、「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも少ないことになる。

また、グラフは右肩上がりになれば良い方向に向っていると判断でき、右肩下がりになれば良くない方向に進んでいると考えられる。

平成31年4月～6月期の調査結果では、業況、売上高、採算、資金繰りの4指標の数値が全て低下した。

<業況>

業況DIは▲21.4で前回調査の▲7.0から14.4ポイント低下した。業種別では、小売業▲40.0（前回調査比▲21.2）、製造業▲27.3（前回調査比▲9.1）、建設業▲30.0（前回調査比±0.0）、サービス業▲13.3（前回調査比▲25.8）、卸売業40.0（前回調査比▲10.0）と建設業を除く4業種で低下した。

7月～9月期見通しは全体で▲24.1であり、数値は低下している。

<売上高>

売上高DIは▲21.1で前回調査の0.0から21.1ポイント低下した。業種別では、小売業▲40.0（前回調査比▲21.2）、製造業▲9.1（前回調査比▲9.1）、建設業▲60.0（前回調査比▲30.0）、サービス業▲6.3（前回調査比▲25.1）、卸売業40.0（前回調査比▲35.0）であり、全ての業種が低下した。

7月～9月期見通しは全体で▲19.3となっており、わずかに上昇が見込まれている。

<採算（経常利益）>

採算（経常利益）DIは▲21.1で前回調査の▲12.3より8.8ポイント低下した。業種別では、小売業▲33.3（前回調査比▲20.8）、製造業▲36.4（前回調査比▲9.1）、建設業▲30.0（前回調査比±0.0）、サービス業▲6.3（前回調査比▲6.3）、卸売業20.0（前回調査比▲5.0）で建設業を除いて低下した。

7月～9月期見通しは全体で▲21.1であり横ばいの見通しである。

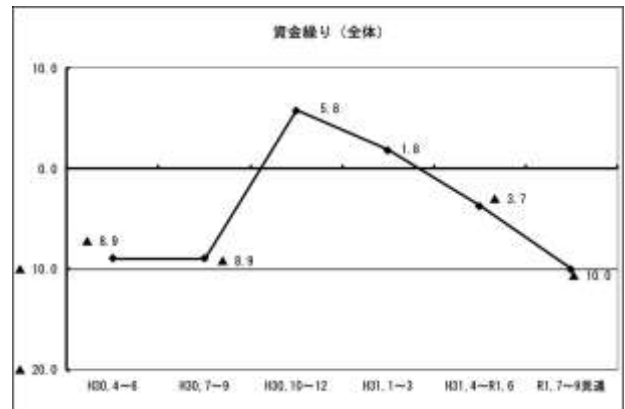
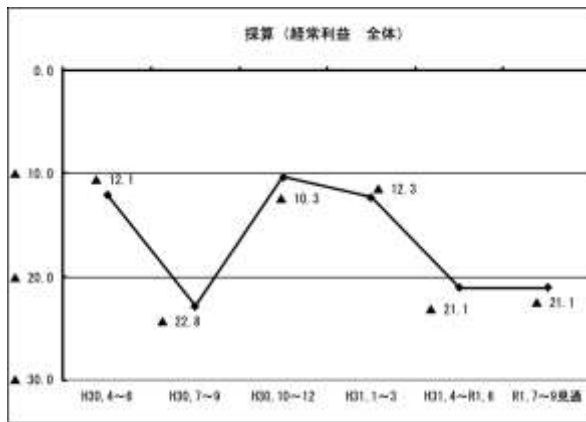
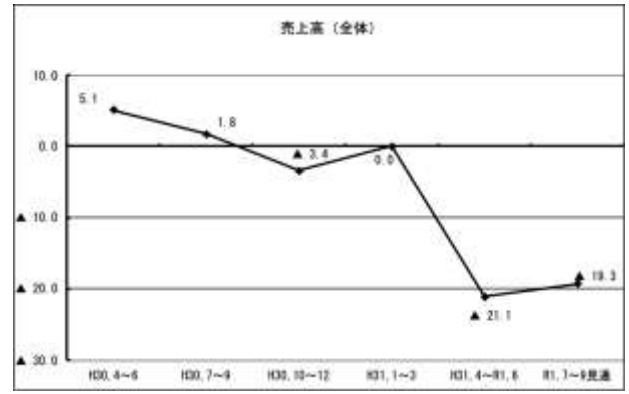
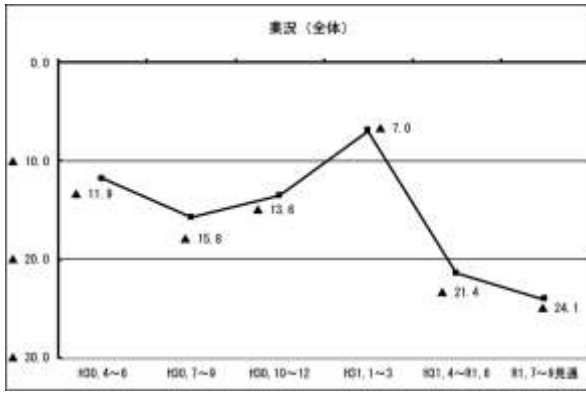
<資金繰り>

資金繰りDIは▲3.7で前回調査の1.8から5.5ポイント低下した。業種別では小売業▲6.7（前回調査比+5.8）、製造業0.0（前回調査比±0.0）、建設業0.0（前回調査比▲10.0）、サービス業0.0（前回調査比▲6.7）、卸売業▲20.0（前回調査比▲45.0）であった。

7月～9月期見通しは全体で▲10.0であり、今回調査実績から低下している。

<その他の意見>

- ・米中経済摩擦による影響が出始めており、拡大、長期化が懸念される



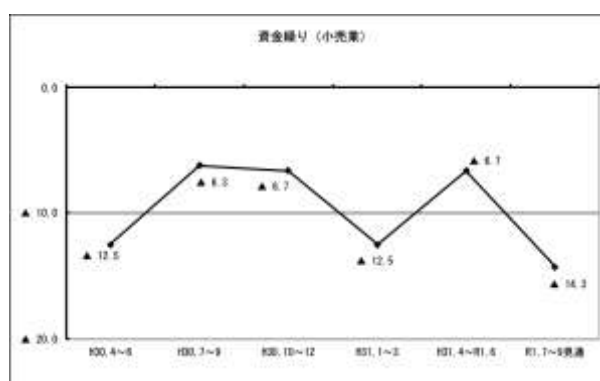
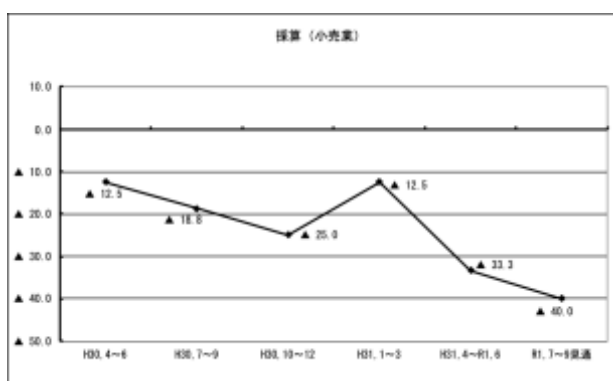
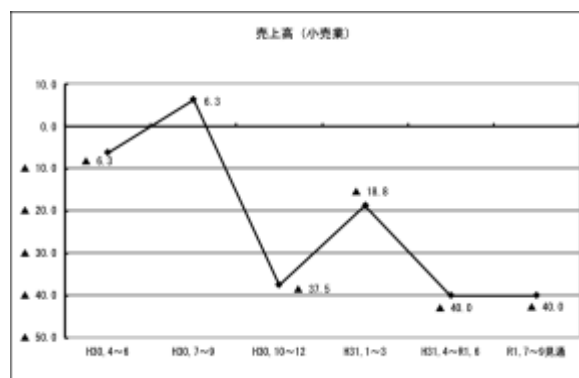
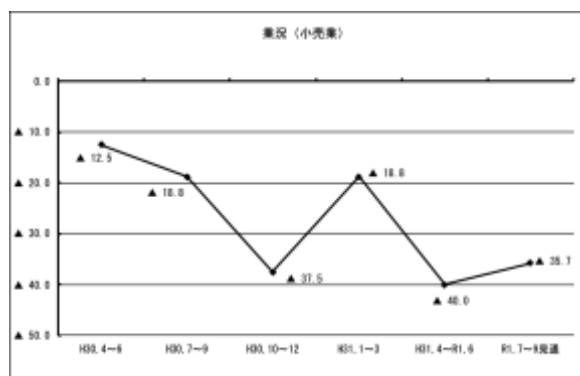
小売業

小売業の業況 DI は▲40.0 で前回調査に比べて 21.2 ポイント低下した。長期の低下傾向から前回調査では少し回復したのであるが、前回調査の見通しの通り今回は低下に転じた。7月～9 月期見通しは▲35.7 とわずかに上昇の見込みであるが業況の回復にはほど遠い。

売上高 DI は▲40.0 で前回調査に比べて 21.2 ポイント低下した。前回調査で上昇したが、今回調査では低下しており、カーブは上向きになってこないようである。7月～9 月期未投資は▲40.0 と今回調査と同じであり、上昇の気配はなさそうである。

採算（経常利益）DI は▲33.3 で前回調査より 20.8 ポイント低下した。採算も前回調査で上昇し今回調査で低下するという同じ動きを見せており、下降傾向は採算面でも長期的に続いているようである。7月～9 月期見通しは▲40.0 でさらに悪化が見込まれている。

資金繰り DI は▲6.7 で前回調査に比べて 5.8 ポイント上昇した。小売業の中では資金繰りだけが上昇した指標であった。資金繰りは他の指標とは違った動きをするようである。7月～9 月期見通しは▲14.3 で悪化が見込まれている。



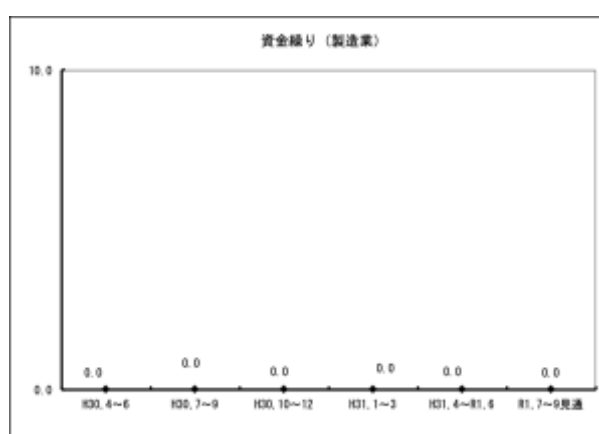
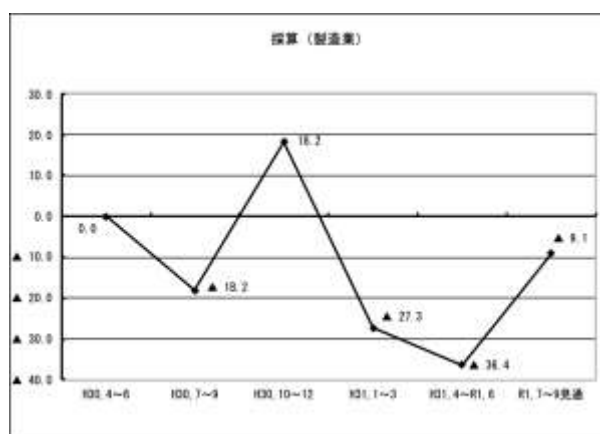
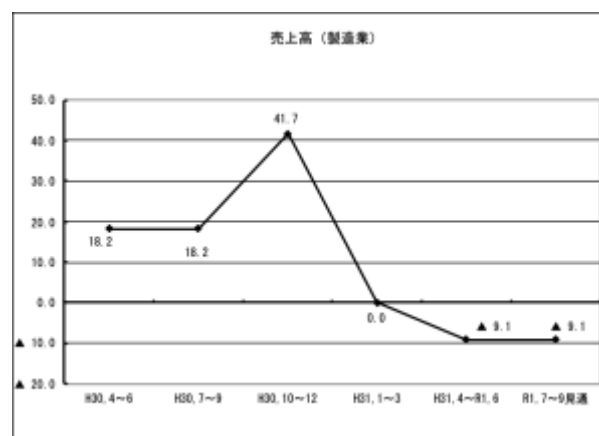
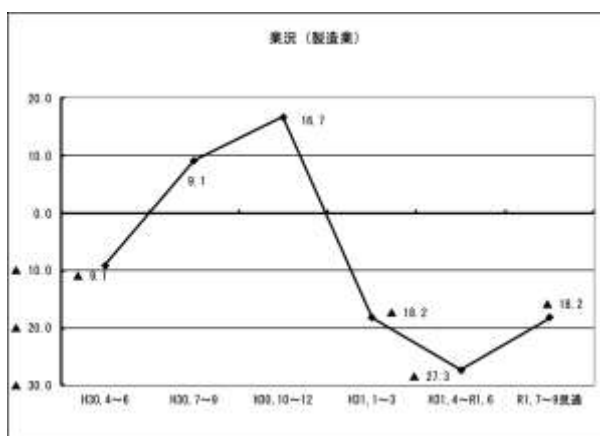
製造業

製造業の業況DIは▲27.3と前回調査に比べて9.1ポイント低下した。前回調査で大きく低下した業況指標が今回も低下した。厳しさが増しているようである。7月～9月期見通しは▲18.2と今回調査に比べると上昇しているが、数値自体はマイナスである。

売上高DIは▲9.1で前回調査と比べて9.1ポイント低下した。売上高も業況と同じように前回調査に引続いてのポイント低下である。7月～9月期見通しでも▲9.1と上昇の見通しは立っておらず厳しいままである。

採算DIは▲36.4で前回調査より9.1ポイント低下した。業況、売上高と同じように採算も前回調査に続き低下している。しかし、7月～9月期見通しでは▲9.1で改善の兆しが見えており採算面ではここが底という見通しである。

資金繰りDIは0.0で前回調査と同じであった。資金繰りは安定した動きを見せている。7月～9月期見通しも0.0で資金繰りは安定しているようである。



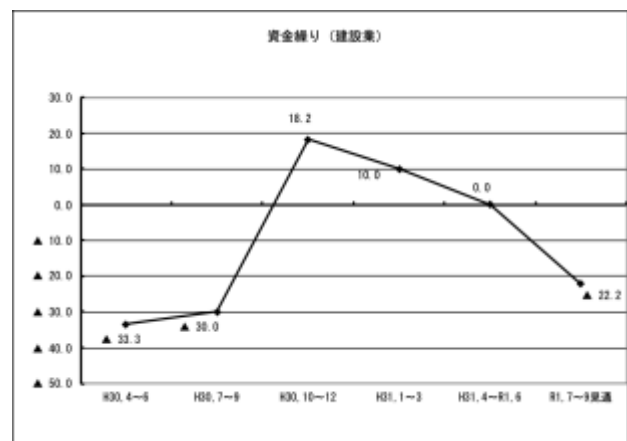
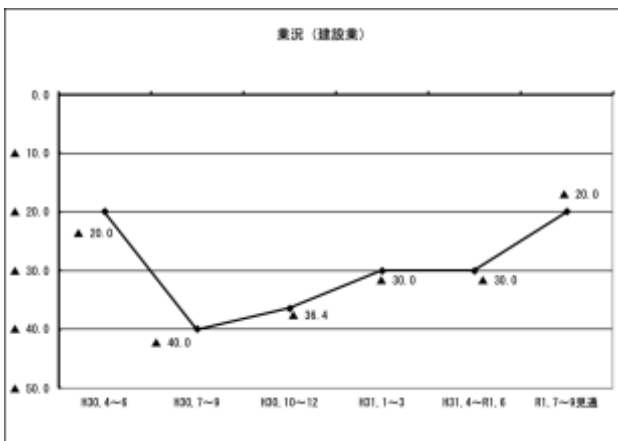
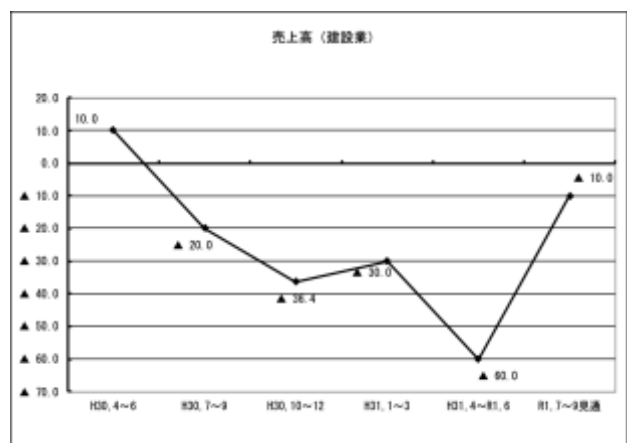
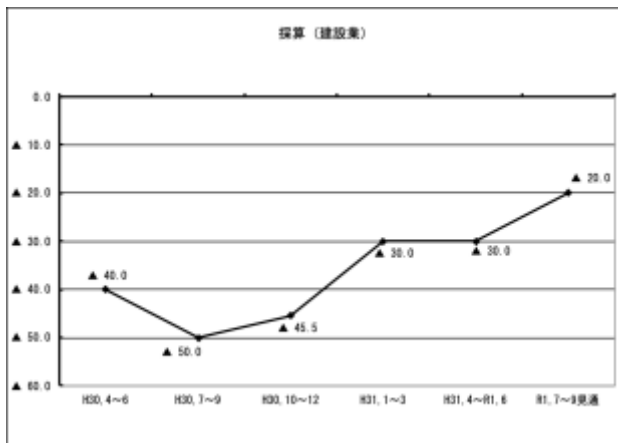
建設業

建設業の業況DIは▲30.0であり前回調査と同じであった。平成30年4月～6月期から1年間同じような数値が続いており、建設業には厳しい1年であったようである。7月～9月期見通しは▲20.0で厳しいままの見通しである。

売上高DIは▲60.0で前回調査より30ポイント低下した。前回調査の見通しでは回復の傾向だと思われていたが、大きく低下してしまった。7月～9月期見通しは▲10.0で大幅回復の見込みである。

採算DIは▲30.0で前回調査と同じであった。採算は業況と同じように平成30年4月～6月期から同じような低位の数値が続いており採算面でも厳しい1年であったようである。7月～9月期見通しは▲20.0と少し上昇する見通しである。

資金繰りDIは0.0で前回調査より10ポイント低下した。資金繰りは他の指標のようにマイナス数値ではないので厳しい状況の中でも安定しているようである。7月～9月期は▲22.2とかなり低下しており資金繰りはこの先厳しくなる見通しである。



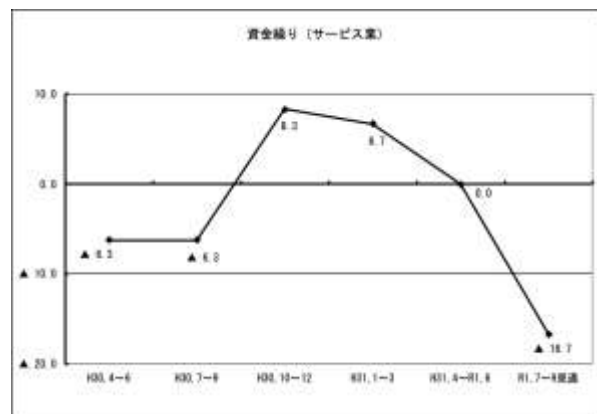
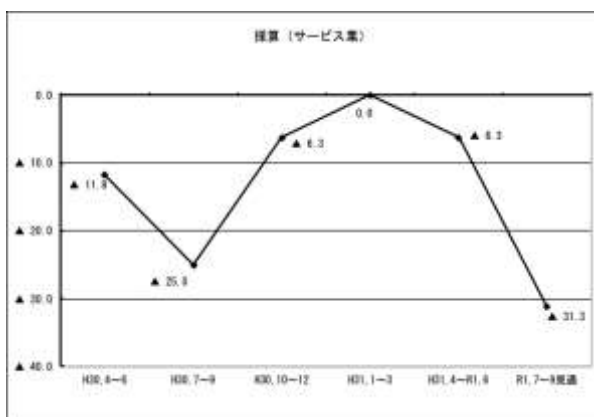
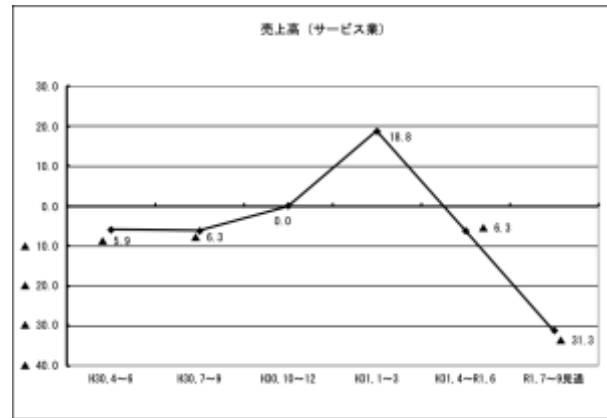
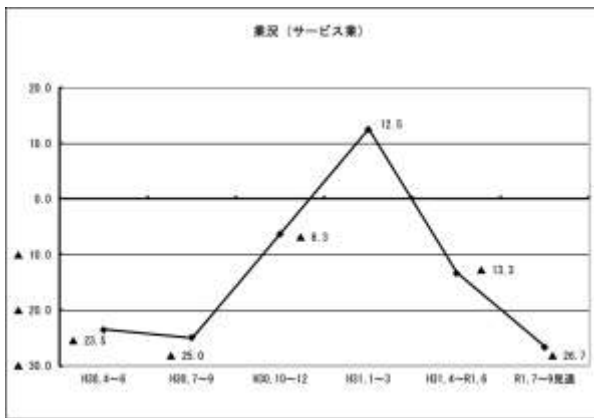
サービス業

サービス業の業況DIは▲13.3で前回調査より25.8ポイント低下した。前回調査で調査開始以来初めてプラスの数値になったサービス業の業況は今回調査でマイナスの数値に戻ってしまった。7月～9月期見通しでも▲26.7とさらに低下が予想されており、再び下降局面に入ったようである。

売上高DIは▲6.3で前回調査より25.1ポイント低下した。売上高も回復基調から一転して下降局面に入ったようである。7月～9月期見通しも▲31.3とかなり厳しい予想である。

採算DIは▲6.3で前回調査より6.3ポイント低下した。前回までの回復基調から採算も下降局面に入ったようである。7月～9月期見通しも▲31.3で一気に厳しさが増してくようである。

資金繰りDIは0.0で前回調査より6.7ポイント低下した。今回調査時点では資金繰りが厳しさを増したとは言えないが、傾向としては下降傾向である。7月～9月期見通しも▲16.7で下降予想になっている。



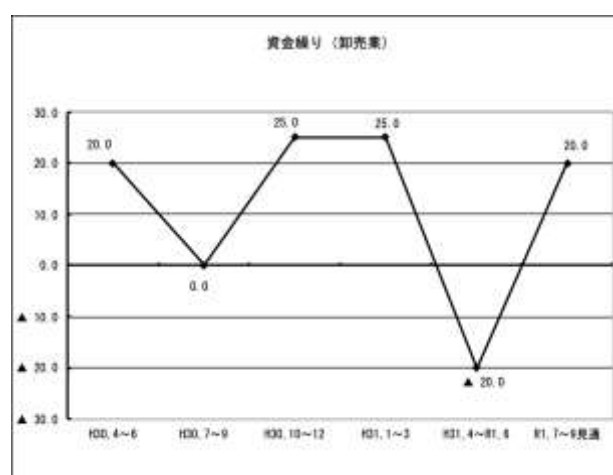
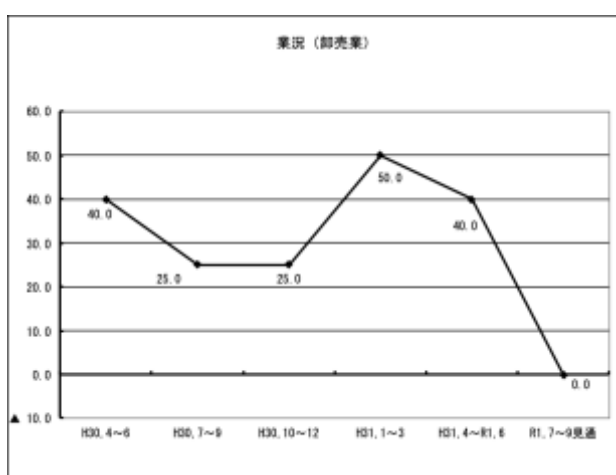
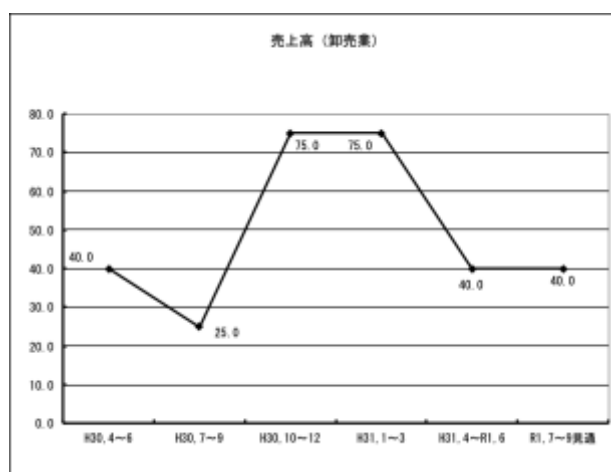
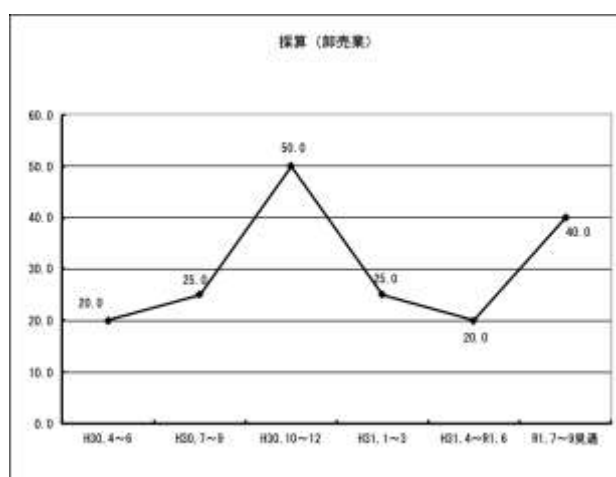
卸売業

卸売業の業況DIは40.0となり前回調査と比べて10ポイント低下した。低下とは言うものの40.0と高い数値であり好調が続いているようである。しかし、7月～9月期見通しは0.0となっており好調に陰りが見えているようである。

売上高DIは40.0で前回調査より35ポイント低下した。2四半期連続で75.0であった前回調査から少し下げてはいるが40.0という高い数値であるので問題はなさそうである。7月～9月期見通しも40.0なので売上高は好調維持のようである。

採算DIは20.0で前回調査に比べて5ポイント低下した。採算は7四半期連続でプラス領域にあり、卸売業の好調はここにも現れている。7月～9月期見通しでも40.0とさらに採算がよくなる見込みになっている。

DI資金繰りDIは▲20.0で前回調査より45ポイント低下した。卸売業の他の3指標とは違い資金繰りは大きく低下した。しかし、7月～9月期見通しでは20.0と反転しており今回実績は一時的な低下のようである。



DI 指数一覧表

	昨年の同期との比較					
	業況		売上高		採算（経常利益）	
	4～6 月期動 向	7～9 月期見 通し	4～6 月期動 向	7～9 月期見 通し	4～6 月期動 向	7～9 月期見 通し
全 体	▲ 21.4	▲ 24.1	▲ 21.1	▲ 19.3	▲ 21.1	▲ 21.1
小売業	▲ 40.0	▲ 35.7	▲ 40.0	▲ 40.0	▲ 33.3	▲ 40.0
製造業	▲ 27.3	▲ 18.2	▲ 9.1	▲ 9.1	▲ 36.4	▲ 9.1
建設業	▲ 30.0	▲ 20.0	▲ 60.0	▲ 10.0	▲ 30.0	▲ 20.0
サービス業	▲ 13.3	▲ 26.7	▲ 6.3	▲ 31.3	▲ 6.3	▲ 31.3
卸売業	40.0	0.0	40.0	40.0	20.0	40.0

	該当期について				昨年の同期との比較	
	採算（経常利益）水準		取引の問い合わせ		従業員	
	4～6 月期動 向	7～9 月期見 通し	4～6 月期動 向	7～9 月期見 通し	4～6 月期動 向	7～9 月期見 通し
全 体	14.0	17.5	▲ 22.2	▲ 26.4	▲ 7.3	▲ 5.6
小売業	13.3	13.3	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 23.1	▲ 8.3
製造業	18.2	18.2	▲ 36.4	▲ 27.3	▲ 9.1	▲ 9.1
建設業	▲ 10.0	10.0	▲ 30.0	▲ 30.0	▲ 10.0	▲ 10.0
サービス業	6.3	0.0	▲ 12.5	▲ 26.7	0.0	0.0
卸売業	80.0	100.0	60.0	40.0	20.0	0.0

	3 カ月前との比較					
	資金繰り		長期借入れ難易度		短期借入れ難易度	
	4～6 月期動 向	7～9 月期見 通し	4～6 月期動 向	7～9 月期見 通し	4～6 月期動 向	7～9 月期見 通し
全 体	▲ 3.7	▲ 10.0	4.3	0.0	4.4	▲ 2.2
小売業	▲ 6.7	▲ 14.3	▲ 9.1	▲ 9.1	▲ 9.1	▲ 9.1
製造業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
建設業	0.0	▲ 22.2	11.1	0.0	11.1	0.0
サービス業	0.0	▲ 16.7	8.3	0.0	9.1	0.0
卸売業	▲ 20.0	20.0	25.0	20.0	25.0	0.0

過去からの動向

